



## キンギョが元気がないとき、塩を入れると本当にいいの

### 塩は薬がわり

キンギョが元気がないときというのは、何か病気になっていることが多いものです。キンギョの病気は、皮ふにかびや細菌がついて起きるものか、寄生虫がついて起きるものが、ほとんどです。そのため、短時間塩水につけると、細菌やかびをやっつける効果がありますし、寄生虫を退治するのにも役立ちます。

ただし、キンギョは、海水の中にすんでいる魚ではありません。だから、食塩水につけるのは、キンギョを海に入れるのと同じで、塩気のこい水では、キンギョは苦しくて、長くつけていると死んでしまいます。ですから、水そうに、たくさん塩を入れることは、ぜったいにしないでください。

### 病気の手当は、かってにやらない

キンギョが病気なら、様子をよく観察して、どこがどんな風なのか調べてから、ペットショップとか、水族館や、水産試験場などに、相談してみましよう。それから、どんな薬を、どうすればよいかをきいてから、手当してあげましよう。

### 塩水のこさと、つける時間が大事

塩水を作るときは、塩のこさが大事ですから、正確に、塩と水の量を計って計算して作りましよう。海水と同じ3パーセントの塩水が、薬としての効果は強いのですが、キンギョをつけておく時間をまちがえると、キンギョが死んでしまいます。ふつうは、1パーセントの塩水を作って、キンギョを30分くらいその中に入れ、すぐ元の水そうにもどしてやります。（監修・安部 義孝）

